

普及成果情報様式

[成果情報名]加工・業務用キャベツ及びハウレンソウの低コスト安定生産技術

[要約]寒玉系を用いた4月～5月どり加工・業務用キャベツは、前作のトンネル被覆を利用し、適品種をリレー的に使用することで安定生産できる。業務用ハウレンソウは作型別に「トラッド」等の適品種を使用し、冬期は施設を日中密閉し夜間のみ開放することで安定生産できる。

[キーワード]加工、業務、寒玉系キャベツ、トンネル栽培、ハウレンソウ

[担当]千葉農林総研セ・北総園研、生産技術部

[代表連絡先]電話: 0479-57-4150、043-291-0151

[分類]技術・普及

[背景・ねらい]

近年、加工・業務用野菜の需要増加は著しく、実需者ニーズに対応する低コスト・良品・安定供給体制の構築が早急に求められている。業務用で求められる寒玉系キャベツは4月～5月の安定出荷が難しく、全国的に供給が不足している。そこで、トンネル被覆による花芽分化の抑制及び生育の促進を図り、4月～5月に寒玉系キャベツを安定出荷するための栽培法を確立する。業務用ハウレンソウは、家計消費より栽培期間が長く、チップバーン等の障害が発生しやすいことや12月～2月に生育が停滞することなどがあり、これらを解決して安定多収技術を確立する。

[成果の内容・特徴]

1. キャベツ

- (1)農ビ等を被覆したトンネルを用いて、早晚性と裂球性の異なる数品種をリレー的に栽培することで、4月～5月まで安定出荷が可能となる(図1)。
- (2)前作のレタス等で用いたトンネル・マルチを再利用することで低コスト化が可能であり(写真1)、セル内基肥による局所施肥により施肥の省力化が図られる。

2. ハウレンソウ

- (1)パイプハウスを用いて、作型別に「トラッド」や「スクープ」等の品種を使用することで、チップバーンや抽台等の障害の少ない良品生産ができる(図2)。
- (2)冬期に施設を日中密閉し、夜間のみ開放する換気法を行うことで、生育が促進され、栽培期間を短縮できる(図3)。

[成果の活用面・留意点]

1. キャベツのトンネル被覆の目的は、花芽分化の抑制、生育促進、寒風害や鳥獣害の防止であり、生育時期別に適切な換気を行う。定植後は、ビニールの裾が通路の地際に触れる程度のほぼ密閉とする。定植1～2週間後に、風下側を通路の地際から5cm開ける裾換気とする。本葉12枚程度の時期に、両裾を通路の地際から5cm開ける。4月中旬以降は、トンネルを除去する。
2. キャベツの施肥は、育苗じまん 2401-80(ジェイカムアグリ)をセル成型苗の培養土の中に基肥として施用するセル内基肥を用い、施用量は窒素1g/株(肥料現物で4.1g/株)とする。この方法により、前作に用いたトンネル、マルチを再利用し、そのまま定植することが可能となる。
3. ハウレンソウは、日中密閉法を収穫間際まで続けると、葉色が淡くなることや、葉折れしやすく収穫しにくくなるので、草丈が25～30cmになったら、日中開放する一般的な換気法に切り換える。

普及成果情報様式

[具体的データ]

適品種	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
YR春空	●●	▲▲				■	
かんろく	●		▲			■	
YR天空	●●	▲▲				■	

凡例 ●:播種 ▲:定植 ■:収穫 ∩:トンネル

図1 寒玉系キャベツトンネル栽培の栽培暦



写真1 寒玉系キャベツのトンネル栽培

作型	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
秋どり		○	□								
		○	□								
冬どり			○	□							
			○	□							
			○	□							
春どり				○	□						
				○	□						
				○	□						
初夏どり									○	□	
									○	□	

凡例:○:播種、□:収穫

図2 業務用ハウレンソウの作型と適品種

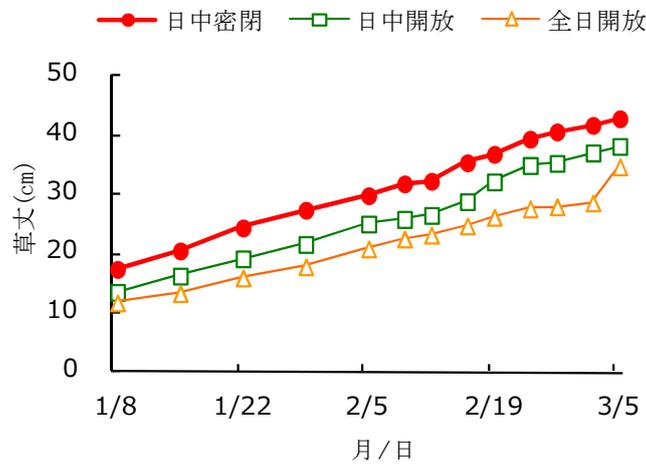


図3 春どり業務用ハウレンソウにおける換気法と草丈の推移
注)2008年11月20日播種、「パスワード7」

[その他]

研究課題名：輸入野菜のシェアを奪還し、千産千消・千産全消費を支援する業務用野菜の開発

予算区分：県単

研究期間：2007年度～2010年度

研究担当者：町田剛史、大木浩